



「いつでも何日でも受け入れOK」と、多彩なメニューで農業や畜産への理解を深めた牧場体験学習

料・環境・エネルギー」問題に積極的に挑戦。牛乳の加工販売により付加価値を高める事業や都市住民との交流ふれあい事業など牧場の持つ多面的機能を最大限に活用。くずまき高原牧場には年間約三十万人の人が訪れる名実とも日本一の公共牧場となり、今回の賞では、農業と町の活性化に果たした役割などが特に評価されました。重なる全国表彰に公社職員は喜びに沸くとともに、今後のさらなる発展を誓っていました。

表彰式は三月二十二日、東京のNHKホールで行われます。

H17年度・畜産大賞  
H18年度・グリーンツーリズム大賞  
オーライ!ニッポン大賞

今度は

# 日本農業賞大賞を受賞

第37回

## 葛巻町畜産開発公社

社団法人葛巻町畜産開発公社（理事長・鈴木重男町長）は、日本農業賞集団組織の部の大賞に選ばれました。平成17年度の畜産大賞から毎年度全国表彰を受けている公社は、重なる榮譽に喜びに沸いています。

二月一日、役場であれしい知らせが届きました。全国農業協同組合中央会と日本放送協会（NHK）が主催する第37回日本農業賞の集団組織の部「大賞」に、葛巻町畜産開発公社が選ばれました。岩手県代表として全国審査に進出した同公社は、書類と現地の厳しい審査を経て大賞三団体の一つに選ばれました。県内での受賞は十一年ぶり、町では昭和五十二年



第2代専務理事  
島山章一さん  
(90・盛岡市)

料の高騰など厳しい時代ですが、葛巻町は北上山系開発で造成した牧草地を持っています。これからの日本を支えるのは、葛巻町のよくな山村です。葛巻町は山林の町。ここで薪炭を生産し林業経営を行って、間伐地にクリやクルミ、蜜源樹を植え、ロッキー山脈の肉牛放牧と同じような山林利用を目指してほしいと思います。自分は今でも葛巻の町民の気持ちでいます。一層の飛躍を期待します。

葛巻町畜産開発公社の日本農業賞大賞受賞、感無量です。公社設立当時、高橋吟太郎町長の要請で、小岩井農場は公社に十年間職員を派遣しました。彼の畜産へのひたむきな情熱に心打たれ、私も五年余り専務として出向しました。現在、諸物価が高騰しブラジル、ロシア、インドや中国などが発展する反面、日本経済の前途は必ずしも明るいとは言えません。粗飼

## おめでとうございます



酪農教育ファーム  
認定農家

川崎美由起さん(52・遠矢場)  
やす子さん(48)

研修や体験学習の知識、公社に学びたい

今回の農業賞大賞で、農業理解や後継者育成のために展開している研修生の受け入れや、体験学習なども認められて感謝です。私たちも公社が実施するスノーワンダーランドのホームステイで、第1回から8年連続で子どもたちを受け入れています。酪農を少しでも身近に感じてもらおうと2月、酪農教育ファームに仲間入りしたので、先駆けて取り組んだ公社の情報や知識を学びたいと思っています。



預託農家

村田敏幸さん(47・山岸)

公社あつての我が家の酪農

公社の周年育成に全頭を預けています。夫婦二人の少ない労働力で、これまで規模拡大できたのも公社の預託事業あってこそ。搾乳に専念できることと、広い牧場で放牧されてた牛は、何よりストレスがなく楽な出産になることがいいですね。今回の受賞は、厳しい酪農情勢の中での朗報。今後も町の農業と酪農家を引っ張り続けてほしいと思っています。

## 農業と町の活性化に大きく貢献

「保育、育成は公社にお任せ」と育成牛を農家から預かって妊娠牛を返す預託事業からスタート。不利な土地条件での草地造成と粗飼料生産技術の体系確立や、先進的技術の導入に取り組みだ成果を町内酪農家に伝授し、町の酪農振興に大きく貢献しました。公社の事業は酪農経営だけには終わりがありませんでした。設立当時の事業に加え、時代に対応したテーマを掲げ「食

度に八幡武雄さん(72)が選ばれて以来のことです。昭和五十年に着工、八年間の歳月と百四十兆円あまりの巨費を投じた北上山系開発事業によって造成された千百の草地を基盤に昭和五十一年に設立した公社。粗飼料の生産と供給、保育、育成を担い、農家は搾乳に専念することで労力や粗飼料の不足を補ってもらい機能分担と、地域酪農経営の支援、振興拠点を目的に町、農協と葛巻財産区が出資しました。

